■■　２８３５５！を２人で遊ぶ

４人用と同じルールのままで２人で遊んでも良いのですが、山札がかなり余ってしまいます。
そこで、以下の手順にすることでひと味違う戦略性を味わえます。

４人用ルールに加えて「各プレイヤーの捨て札置き場」が登場します。
基本的なルールは同じなので、先に説明書で４人用ルールを把握しておいてください。

●スタートステップ
４人用の時と同じ。

●プロデュースステップ（５回行う）
①審査員カードの公開　…山札を**１枚**めくり、審査員カードとします。
プロデュースステップ１回目のみ、SKが公開されたらスタートステップからやり直してください。
②手札の配布　…山札を５枚引き、手札とします。
③ドラフト
４人用の時と異なり、以下を順番に行います。
1) 手札を１枚手元に置き、残り（４枚）を相手に渡す。
2) 手札を１枚手元に置き、さらに１枚捨て札にして、残り（２枚）を相手に渡す。
3) 手札を１枚手元に置き、さらに１枚捨て札にする。
手元に置く時に表向き（ｐアイドルにする）にするかどうかを選ぶ事や改行のルールなど、「手札を捨て札にすること」以外のルールは４人用の時と同じです。
１回のプロデュースステップで自分の場にはカードが３枚置かれ、２枚が捨て札になります。
④チェンジ　…４人用の時と同じ。

【memo】

プロデュースステップを５回行ったとき、審査員カードも５枚並んでいます。
また、自分の場には１５枚のカードが並ぶことになります。
つまりプロデュースステップの回数以外は３～４人プレイの時と同じ状況になります。
捨て札置き場のカードは相手に見えないように裏向きにしておきましょう。自分の捨て札の内容は自由に確認してかまいません。

●オーディションステップ
４人用の時と同じ。

●ゲーム終了
４人用の時と同じ。

補足１：捨て札を捨てた順番が分かる様に置くことで、ゲーム終了後に「どのタイミングで相手に渡したくないカードを止めたか」を見直すことができます。
補足２：ゲームに使用するカードが手札５枚×５周×２人＝５０枚、審査員カードが６枚で合わせて５６枚。つまり１０枚のカードが山札として残ります。